

農協内人的ネットワークの形成：平成23年度資源環境経済学講座修士論文要旨

著者	山口 祥平
雑誌名	農業経済研究報告
号	43
ページ	128
URL	http://hdl.handle.net/10097/56359

農協内人的ネットワークの形成

The trial to make a human network in japan agricultural cooperatives

山口 祥平 (フィールド社会技術学分野)

【目的】

近年、農業協同組合は社会情勢の変化に伴い、拡大したステークホルダーの多様なニーズにどのように応えて行くのかということや、組織の役割として今後どのような方針を持って組織を運営して行くのかなど問題が多様化している。このような中、従来のヒエラルキー型組織では問題への対応に限界が出ているので

はないかと考えている。ヒエラルキー型組織の問題点として人のネットワークに焦点をあてた場合には、階層間のネットワークだけが存在しており、主に現場においての多様な問題に対して相談相手が上司と限定されてしまう。そのため、対応方法に幅を持たせることが難しい。このように組織内で活用出来る人のネットワークが少なく、限定されてしまう状況を分断の問題として捉えた。よって、現状のヒエラルキー型組織である農協組織に部分的ではあるがネットワーク組織の要素の一つである人的ネットワークが分断の緩和方法として活用される可能性があるのではないかと想定した。本研究では人的ネットワークの形成を試みるにあたって発生する問題点、組織風土として人的ネットワークが受け入れられるかなどについて単協内職員を対象に検証することを目的とする。

【材料と方法】

本研究では人的ネットワークの形成として宮城県内 14 農協の職員を対象範囲とし、組織内の課題、問題点を基点とした、仕事に対して問題意識が高く機会があれば行動したいと考えている人々を組織内、組織間において結び付けることを考えている。

人的ネットワークの形成方法は段階別に区切った方法をベースとしている。農協内職員を対象に第一段階では Web アンケート、第二段階では Web 掲示板、第三段階では会議の実施を考えている。本研究では時間の制約から第三段階を対象外とし、第一段階、第二段階について実施を試みる。

【結果と考察】

現在、人的ネットワークの形成における進行状況は第一段階 Web アンケートを終了し、第二段階の Web 掲示板の運用を行っている。現時点での分析の結果、ひとつの課題が見つかっており途中研究報告として簡単に記述する。

Web アンケートの記述式の設問においては、回収したアンケート中 83% の人が回答しており、一人あたりの記述文字数は約 190 字となった。この数字は人的ネットワークを発言の機会と捉えた場合には十分な活用動機として推測することも出来ると考えている。しかし、2011 年 11 月 28 日から運用を開始した Web 掲示板においては 140 人前後が読み取り可能な状況で、実際に書き込んだ人数は 5 人、書き込み件数は 13 件であった。Web アンケートと Web 掲示板の間ではかなりの発言の差が生じている。

ここでいくつかの原因を推測しているが、Web 掲示板を運用してから約一ヶ月であることからまだ改善方法の実施は行っていない。今後、Web 掲示板の動向を見ながら改善方法を実施し、発言の差を解消して行くと考えている。